

＜桂文珍 落語的見聞録＞ 1月
どこから見ればいいのかやら 2026. 1. 15.

神戸新聞朝刊

神戸新聞 next より整理転記

＜桂文珍 落語的見聞録＞ どこから見ればいいのかやら 2026. 1. 15.

昔、1月15日が成人の日だったのが、1月の第2日曜日の次の日が成人の日と変わったらいい。連休で消費活動も増えるだろうと考えられたのか？

でも正月にお金使ってお金はないし、寒いし、じっと家にいよう、物を買うにも物価高、円安がますます進むし、将来は大丈夫か？と、成人になる若者に希望や夢を与えなければ大人としていかんぞ！と思っている矢先、高市早苗総理が衆議院を解散するのではという一部報道があった。

今なら支持率が高いので勝負に打って出ようというのか、政策への評価がタカイチなのか、イマイチなのかわからない。

物価高対策や対中国との関係修復、株価が上がっても、円安が進めば、物価高になるのは当たり前。

そして、トランプ大統領のベネズエラへの関与、グリーンランドをまるで不動産でも買うかのように、アメリカの領土にしようとか、希土(レアアース)なんぞが埋蔵されているとか、中国とのパワーバランスとか、理由はいくらでも作れるだろうが、強権的な手法で西半球はアメリカが押さえるのだと聞いて、私の友人は、阪急百貨店の西側だと間抜けなことを言っていた。

今後、民主主義はどうなるの、日本はそんなトランプ大統領とどう付き合っていけばいいのか…。

カードのトランプならばハートがあるのになあ…と。

ジョーカーになられると困るのだ。日本の知恵が試される。



落語「御慶(ぎょけい)」では職人の八五郎が正月のあいさつに「旧年中はいろいろお世話になりました。

本年も相変わらずお引き立てのほどを願います」と言いなさいと女房に言われるが、覚えられない。

なので、うんと短く、「御慶」として、あちらこちら「ええ御慶ッ御慶ッ」と年始回りをする。

というのは初夢で、鶴が梯子の天辺ですうーと羽を広げている夢、

これでいいことがあると、あいさつ回り。ついでに富くじを買う。

鶴は千年というから頭に千、梯子だから八四五、千八百四十五番の札を求めたが売り切れ。

がっかりしていると易者が梯子は下から上へのぼるのだから八四五でなく五四八、

つまり千五百四十八番を買えと言う。

これを買うと大当たり、八五郎は千両を手にするというかわいい噺(はなし)。

物ごととは一方からだけでなく逆から見るのも大切と教えてくれる。

ベネズエラやグリーンランドの人たちはどうトランプ氏を見ているのだろう。

一方からの報道だけではわからない。

(かつら・ぶんちん＝落語家)

相変わらず頭明快 冴えておられる桂文珍さんのトーク。本年もよろしく。

年の初め 頭バラバラの私など、どうにも捉えられぬ日本の状況を

今の世界情勢を踏まえ、日本の立場と課題を世代間の差丸く収めて明快なまとめ。

やたらに一方的にしゃべりまくる TV や SNS よりよっぽど明快な解説。政治家にも聞かせたい。

落語は「御慶(ぎょけい)」の一席 聞いたことあるかなあ???

物ごととは一方からだけでなく逆から見るのも大切と。一方からの報道だけではわからない。

本当にふむふむと。

2026.1.16. from Kobe Mutsu Nakanishi